市内の山城群の魅力の発掘及び発信について

所管課　観光交流課
所管課　生涯学習課

１．概要

市は、コロナ禍の観光形態として注目を集める戦国山城観光を推進するため、全国山城サミット恵那大会を開催し、本市の山城群及び戦国史を発掘並びに発信するとともに、観光交流人口の拡大及び地域活性化を図る。また、山城群の整備を行い、受入環境の整備を図るとともに、地域の担い手育成を進め、本市の山城群が地域の財産及び観光資源として維持される体制づくりに取り組む。

２．内容

（１）全国山城サミット恵那大会の開催

①内容　　講演会、地域イベント、周遊ツアー等
②開催時期　　令和４年 10 月（２日間）
③事業費　　8,000 千円
④実施主体　　実行委員会

（２）山城観光の受入体制の整備

①内容　　山城マップの作成、山城講座の開催、ガイド養成等
②事業費　　3,000 千円
③実施主体　　市

（３）山城受入環境の整備

①内容　　支障木伐採、遊歩道整備、説明看板の設置等
②事業費　　17,919 千円
③実施主体　　市

（４）岩村城登城路の整備

①事業費　　11,000 千円
②実施主体　　市

３．当初予算

（１）歳入

4,000 千円（県補助金　戦国観光推進事業費補助金）
7,500 千円（県補助金　清流の国ぎふ森林・環境基金事業費補助金）

（２）歳出

8,000 千円（観光一般経費）
3,000 千円（観光資源活用事業費（訪れたいまち））
17,919 千円（観光施設維持管理事業費）
11,000 千円（文化財の調査・保存・活用事業費（歴史文化））

嚶鳴フォーラム in 恵那 2022 について

所管課　生涯学習課

１．概要

ふるさとの先人をまちづくり・人づくり・心そだてに生かす全国 15 自治体の集まりである「嚶鳴協議会」が開催するフォーラムを令和４年 11 月に、本市で開催する。嚶鳴とは、中国最古の詩集「詩経」の中の言葉から、仲間が集まって切磋琢磨しながら、教えあい、学びあい、共に成長しあう姿を表す。

本市での開催は平成 21 年度以来 13 年ぶりで、来年度は佐藤一斎先生の生誕 250 年記念の節目の年でもある。フォーラムを契機に平成 22 年度に作成した「恵那の先人 30 人」、平成 23 年４月１日に制定した生涯学習都市「三学のまち恵那」宣言を基に本市がどのように変化し、まちづくり、人づくり、心そだてに生かしたかについて成果をまとめ、次代を担う子供たちと共に考える機会とする。

２．内容（案）

（１）開催日　令和４年 11 月 18 日（金曜日）、19 日（土曜日）予定

（２）場所　恵那文化センター　大ホール

（３）主催　嚶鳴フォーラム in 恵那実行委員会、恵那市、恵那市教育委員会

（４）共催　嚶鳴協議会

※恵那市、大野町（岐阜県）、沖縄市（沖縄県）、小田原市（神奈川県）、釜石市（岩手県）、木曽町（長野県）、高鍋町（宮崎県）、多久市（佐賀県）、竹田市（大分県）、田原市（愛知県）、東海市（愛知県）、長野市（長野県）、日野市（大分県）、養父市（兵庫県）、米沢市（山形県）

（５）イベントの主な内容

①市町長会議、教育長会議を開催し、加盟自治体の意見交換を行う。

②市内視察を開催し、恵那市の史跡、観光地等を中心に紹介する。

③加盟自治体の先人顕彰団体等の交流の場を設ける。

④本市の先人顕彰事業活動報告

⑤小学生中学生フォーラムの開催

３．当初予算

（１）歳入　2,000 千円（県補助金　岐阜県清流の国ぎふ推進補助金）

（２）歳出　5,000 千円（三学のまち推進事業費（学びの継続））

2023年以降の世界ラリー選手権（ＷＲＣ）開催について

所管課　ＷＲＣ活用推進室

１．概要

ＷＲＣ日本ラウンド（ラリージャパン）の2022年大会までは、民間主体による大会運営が行われるが、2023年以降の開催に当たり、愛知県豊田市が昨年11月に、2023 年から３か年の大会開催を同市が運営主体となり開催する準備を進めることを表明した。

市では、豊田市からの呼び掛けの下、既にラリー関連の取組を同市と連携して行ってきている関係性を生かし、同市と協力して開催準備を進める。また、地方自治体主体によるＷＲＣの開催は、日本初であり、地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税による支援を活用するなど、官民一体で開催する。

２．目的

両市の地域経済の活性化、山村の振興、交通安全の推進、自動車産業の振興等に寄与するため、2023 年以降に開催するラリージャパンを安全かつ円滑に実施する。

３．2023世界ラリー選手権に向けた準備委員会及び実行委員会の設立

（１）組織設立

豊田市、恵那市、民間出資者で組織

（２）設立時期

令和４年　４月（予定）

2023世界ラリー選手権開催準備委員会（仮称）を設立

令和４年11月（予定）

2023世界ラリー選手権実行委員会（仮称）へ改組

※国際自動車連盟（ＦＩＡ）が開催地を決定及び公表後

（３）運営体制

豊田市が運営主体となり事務局を担い、本市から職員（１名）を派遣

４．当初予算

（１）歳入

105,000千円（国庫補助金　地方創生推進交付金）

120,000千円（企業版ふるさと納税寄附金）

（２）歳出

225,000千円（モータースポーツ推進経費（訪れたいまち））

※実行委員会設立に伴う出資金

全国山城サミット恵那大会のチラシのエーナの兜の桔梗家紋について

１．山城サミットチラシについて
・お城ＥＸＰＯ及び市内配布用として令和３年 12 月に制作
・表紙にエーナが兜をかぶって写っている写真を採用している

２．兜をかぶったエーナを採用した理由
・コアな山城ファンのみではなく、ファミリーや子どもにも広く山城サミットをＰＲしたかったため
・普通のエーナがチラシに登場するだけでは違和感があり、兜をかぶった写真を使うことで、山城サミットとの一体感を生むために採用した

３．兜が桔梗家紋だった理由
・桔梗家紋という意図はまったくなく使用していた
・エーナ兜は、恵那市大河ドラマ「麒麟がくる」実行委員会で制作した特注品であり、たまたま桔梗家紋であった
・エーナ兜の写真がこの１枚のみであった

４．今後の対応
・今後制作する恵那市全体をＰＲするチラシや資料には、桔梗家紋の兜は使用しないこととする

歴史考証イラストの完成及び活用について

全国の城など数多くの歴史考証イラストを手掛ける香川元太郎氏による、「岩村城跡」と「正家廃寺跡」の歴史考証イラストが完成しました。

今後、歴史的価値の保存や市のＰＲなどに活用しますので、広く周知いただきますようお願いします。なお、定例記者会見終了後に完成ＰＲを行いますので、取材いただきますようお願いします。

記

１．歴史考証イラストとは

日本の城や歴史の舞台となった場面を、鳥瞰図や断面図で描いたものです。その制作にあたっては、歴史学の専門家と綿密な考証を重ねており、歴史の一場面を具体的かつ多角的に知ることができるとして、高い評価を受けています。

本市では、令和３年１月に完成した「明知城」「明智三城」に続く作品となります。

２．参考資料等

岩村城跡は享保、明和時代の絵図を基に、正家廃寺は発掘調査の成果を基にして、現状の風景を克明に描いています。

３．考証者

・岩村城跡（県史跡）

三宅唯美（ただよし）（市教育委員会）

・正家廃寺跡（国史跡）

鈴木智大（ともひろ）氏（独立行政法人奈良文化財研究所研究員）

４．作者略歴

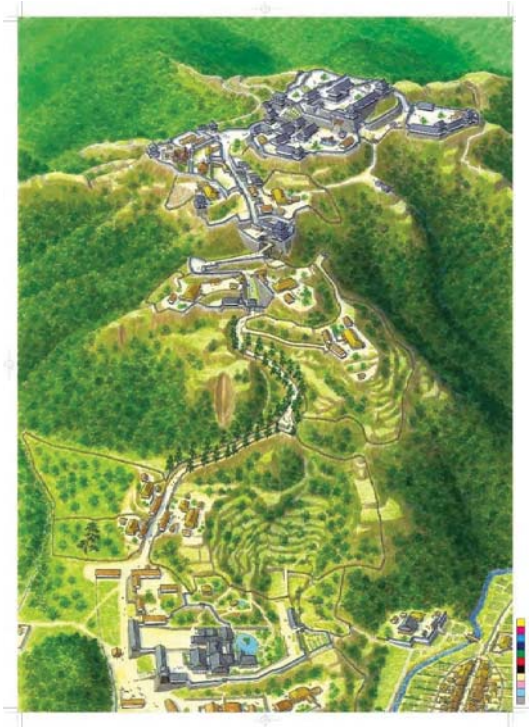
歴史考証イラストレーター
香川　元太郎(かがわ　げんたろう)氏

1959 年、愛媛県松山市生まれ。日本画家・イラストレーター・絵本作家。日本城郭史学会委員。歴史考証イラストを専門とし、特に城の復元イラストは数百点を制作している。

主な著書に『よみがえる日本の城』（PHP 研究所）、『ワイド&パノラマ鳥瞰・復元イラスト日本の城』、『オールカラー徹底図解　日本の城』（ともに学研プラス）など

絵本作家としても、『迷路絵本シリーズ』（PHP 研究所）をはじめ、『かずの冒険』（小学館）や『光の杖』（河出書房新社）など

５．歴史考証イラスト



県史跡岩村城跡

国史跡正家廃寺跡